

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																																		
富山情報ビジネス専門学校		昭和51年4月1日	喜多憲治	〒934-0341 富山県射水市三ヶ576 (電話) 0766-55-1420																																		
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																																		
学校法人浦山学園		昭和41年12月26日	浦山哲郎	〒934-0341 富山県射水市三ヶ613 (電話) 0766-55-3977																																		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																	
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	幼児教育学科		平成26年文部科学省告示第6号	-																																	
学科の目的	保育または幼児教育のあり方について、専門知識を基に自ら考え実践できる人材を育成する																																					
認定年月日	平成 28年 2月 19日																																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																															
2年	昼間	1935時間	615時間	840時間	540時間	0時間	0時間																															
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																
60人		45人	0人	6人	8人	14人																																
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 基準 A(90点以上)、B(80点以上)、C(70点以上)、D(60点以上)、F(60点未満)の5段階で評価し、Fを不認定とする。 方法 課題・授業態度・その他の要素を一定割合の評価点として算出し、合計する																																		
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日～9月1日 ■冬季:12月12日～1月9日 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	卒業条件:GPA(評定平均値)2.0ポイント以上 取得単位数:93単位。必修科目を取得済みのこと 進級条件:保育実習Ⅰの単位を修得していること。また、取得単位40単位を取得していること。																																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的な生活指導		課外活動	■課外活動の種類 富山県内の福祉施設などのボランティアに参加 ■サークル活動: 無																																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 富山県内の保育園・幼稚園・福祉施設 ■就職指導内容 ・企業研究指導、履歴書指導、面接指導、個別面談 <table border="1"> <tr> <td>■卒業生数</td> <td>22</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職希望者数</td> <td>22</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職者数</td> <td>21</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職率</td> <td>95</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合</td> <td>95</td> <td>%</td> </tr> </table> ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 28 年度卒業生に関する 平成29年5月1日 時点の情報)		■卒業生数	22	人	■就職希望者数	22	人	■就職者数	21	人	■就職率	95	%	■卒業者に占める就職者の割合	95	%	主な学修成果(資格・検定等)※3 <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士資格</td> <td>①</td> <td>22人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教諭二種免許</td> <td>①</td> <td>22人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	保育士資格	①	22人	22人	幼稚園教諭二種免許	①	22人	14人								
■卒業生数	22	人																																				
■就職希望者数	22	人																																				
■就職者数	21	人																																				
■就職率	95	%																																				
■卒業者に占める就職者の割合	95	%																																				
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																			
保育士資格	①	22人	22人																																			
幼稚園教諭二種免許	①	22人	14人																																			
中途退学の現状	■中途退学者 6名 平成28年4月1日時点において、在学者45名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者39名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路の変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 長期にわたる個別のカウンセリングの実施		■中退率 15%																																			

<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：<input checked="" type="checkbox"/>有<input type="checkbox"/>無 ※有の場合、制度内容を記入 ・プレゼンテーション入試(入学時選考) 選考により 1年次授業料免除 1年前期授業料免除 入学金免除 1年前期施設設備費免除 ・進級時特待生試験(進級時選考) 選考により 翌年授業料免除 翌年前期授業料免除 翌年前期演習充実費免除</p> <p>■専門実践教育訓練給付：<input checked="" type="checkbox"/>給付対象<input type="checkbox"/>非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価：<input type="checkbox"/>有<input checked="" type="checkbox"/>無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>http://www.bit.urayama.ac.jp/subject-course/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

保育士養成課程においては、厚生労働省の指定カリキュラムに準じた科目を設置している。また、これからの新制度に対応できるよう必要な知識・技術を把握し、保育・教育現場関係者と連携し、授業内容の検討を行っている。また認定する科目に応じ、必要となる環境・講師を事前に準備している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項、各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項、教科書・教材の選定に関する事項、その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項を審議し学科に提案する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
稲垣 応顕	上越教育大学大学院 学校臨床研究コース教授	平成27年10月1日～平成29年9月30日(2年)	②
蜷川 徳子	富山県私立幼稚園協会 副会長	平成27年10月1日～平成29年9月30日(2年)	①
稲田 幸恵	社会福祉法人浦山学園福祉会 新湊作道保育園 園長	平成27年10月1日～平成29年9月30日(2年)	③
竹内 恭子	社会福祉法人浦山学園福祉会 小杉西部保育園 園長	平成27年10月1日～平成29年9月30日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成28年10月13日 16:30～17:30

第2回 平成29年 3月27日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

平成31年度からの職業専門大学の流れをうけ、教育実習・保育実習の重要度がさらに大きくなっていくことが予想される。これを受けて各科目内容の連携を十分に検討していくこととする。また、当校カリキュラムの強みとしてIT環境を活かした指導を更に行っていくこととする。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習においては厚生労働省の指導の下、基準を満たす保育所及び福祉施設で行っている。実習先での活動に関しては、実習先の運営方針に基づき、職員の指導の下で保育士としての業務全般を経験するし、学内での学習とあわせ保育現場で即戦力となる人材を育成する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

当該実習および演習授業において、授業概要立案、実施、評価に至るまで連携先と相談し 実施している。年度開始前に、契約書を取り交わし、授業概要を作成確認し、実施後の成績評価まで双方の確認をおこなっている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
-----	------	-------

<p>保育実習Ⅰ</p>	<p>保育所での実習は、保育所の意義や役割についての理解、一日の生活の流れを体験し、それぞれの年齢の保育内容や環境の理解すること。また、子どもと直接かかわり、援助の仕方を学び、発達の実際を理解して実践する力を養うことや保育所の職員の職種や職務内容の実際を理解することを目的とする。 施設での実習は、これまで学習してきた理論を基礎として、総合的に実践する応用力を養う。また、施設利用者に対する直接的な働きかけを通じて福祉の理論と実践について学ぶことを目的とする。</p>	<p>社会福祉法人四方福祉会 四方保育所、 社会福祉法人大山保育会 おおしょう保育園、 社会福祉法萌黄福祉会 やまむろ保育園、 社会福祉法人わかば福祉会、 社会福祉法人おおぞたこども福祉会 みかど保育園 社会福祉法人恵風会 富山市介護事業所第一あすなろ、 富山県立砺波学園、 社会福祉法人白皇山保護園 障害者支援施設野積園、 社会福祉法人野の草会 こもれびの里、 NPO法人 ふるさとのあかり</p>
<p>保育実習Ⅱ</p>	<p>保育実習Ⅰを踏まえて、地域子育て支援としての保育園の果たす役割と内容や子ども一人一人の個性や個人差を理解する。また発達を考慮して保育活動の指導計画を立て、実践する力や安全で充実した生活や活動のために保育室や園庭などの環境を構成する力を養う。そして、保育士として、子ども一人一人のかかわり方や留意点について学ぶ。</p>	<p>社会福祉法人富山学院福祉会 堀川南保育園、高岡市立はおか保育園、 社会福祉法人大山福祉会 上滝保育園、社会福祉法人 双葉保育園、 射水市立塚原保育園</p>
<p>保育実習Ⅲ</p>	<p>これまで学習してきた理論を基礎として、総合的に実践する応用力を養う。また、施設利用者に対する直接的な働きかけを通じて福祉の理論と実践について学ぶことを目的とする。</p>	<p>社会福祉法人恵風会 富山市生活介護事業所第一あすなろ、富山県立砺波学園、 NPO法人 ふるさとのあかり、社会福祉法人 めひの野園、富山市立中央児童館</p>
<p>教育実習</p>	<p>教育実習前半の目的は、学内教育で習得した知識・技術を基に幼稚園で実践し統合することにある。さらには、幼児教育現場での専門職に求められる適切な行動、態度、そして責任感など社会人として求められることを習得することも大きな目的となる。つまり、学内教育で学んだ知識・技術を現場で実践し統合することで、さらに高い学習効果を得ることができることとなる。 また、後半の実習に関しては前半の実習を踏まえ、より実践的な知識や技能を身につけることとする。さらには、幼児教育現場での専門職に求められる適切な行動、態度、そして責任感などを習得する。つまり、学内教育と教育前半で学んだ知識・技術を現場で実践し統合することで、さらに高い学習効果を得ることができることとなる。</p>	<p>学校法人博愛学園 あけぼの幼稚園 認定こども園 こぼと幼稚園 学校法人紅葉ガ丘学園 紅葉ガ丘幼稚園 学校法人鷹寺学園 認定こども園 太閤山あおい幼稚園 学校法人富山育英学園 大泉幼稚園</p>

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

保育現場において、必要とされる基礎的な科目及び実践的な授業科目を展開するため、保育に関する知識・保育技術に関する技術に関する技能・現代の子ども像を捉える応用力を教職員が習得し、またその教育に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図る。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

全国保育士養成協議会全国大会

「遊びを中心とした保育」再考～遊びをどう理解し、援助するか～ 聖心女子大学 教授 河邊 貴子

② 指導力の修得・向上のための研修等

全国保育士養成協議会全国大会

シンポジウム「こども・生きる・あそぶ -子どもの最善の利益を保障するために-

分科会参加

テーマ「保育専門職への意欲を高めるキャリア支援」

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

全国保育士養成協議会 中部ブロックセミナー

「保育実習指導科目のシラバスからみえる実習指導の実際と課題」 仁愛大学 青井夕貴氏

② 指導力の修得・向上のための研修等

全国保育士養成協議会 中部ブロックセミナー

テーマ「障がい児保育から保育所保育指針改定を考える」

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

富山情報ビジネス専門学校により実践的な職業教育の質を確保するため、自己点検評価報告書に基づき、教育活動の観察や意見交換をおこなう。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(自己点検・評価報告) I-A建学の精神、I-B教育の効果
(2) 学校運営	(自己点検・評価報告) III-A人的資源、IV-A理事長のリーダーシップ、IV-B校長のリーダーシップ、IV-Cガバナンス
(3) 教育活動	(自己点検・評価報告) II-A教育課程、III-A人的資源
(4) 学修成果	(自己点検・評価報告) II-B学生支援
(5) 学生支援	(自己点検・評価報告) II-B学生支援
(6) 教育環境	(自己点検・評価報告) III-B物的資源、III-Cその他資源
(7) 学生の受入れ募集	(自己点検・評価報告) II-B学生支援
(8) 財務	(自己点検・評価報告) III-D財的資源
(9) 法令等の遵守	(自己点検・評価報告) I-C自己点検・評価
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・学習成果の測定方法を検証すべき

学内で検討し、検定2週間前からの測定を開始した。資格の必要性も併せて検討実施中。

・卒業生の離職についての対応

離職率調査を実施するため準備中。離職しないための指導授業として、学科ごとにキャリア支援を平成30年度入学生から実施予定。

・学生が、自習できるようにする仕組みづくり

各学科でアクティブラーニングへの対応と併せて検討実施中。

・実務対応と適応力を育む人材育成

リーダーシップだけでなく、フォロワーシップの重要性も指導するためのキャリア指導科目設定。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年3月15日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
吉岡 隆一郎	株式会社文苑堂書店 代表取締役 社長	平成28年10月1日～平成30年9月30日(2年)	企業等委員
杉本 章郎	富山情報ビジネス専門学校同窓会 会長	平成28年10月1日～平成30年9月30日(2年)	卒業生
奈呉江 教典	高岡龍谷高等学校 校 長	平成28年10月1日～平成30年9月30日(2年)	高校校長
寺谷 隆子	富山情報ビジネス専門学校同窓会 後援会長	平成28年10月1日～平成30年9月30日(2年)	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL:

http://www.bit.urayama.ac.jp/disclosure/pdf/evaluation_report.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

富山情報ビジネス専門学校職業実践専門課程認定学科における職業教育について、次年度より実践的な教育活動をおこなうための指摘事項や意見をもらう場とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(自己点検・評価報告) I-A建学の精神、I-B教育の効果
(2) 各学科等の教育	(自己点検・評価報告) III-A人的資源、IV-A理事長のリーダーシップ、IV-B校長のリーダーシップ、IV-Cガバナンス
(3) 教職員	(自己点検・評価報告) II-A教育課程、III-A人的資源
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(自己点検・評価報告) II-B学生支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	(自己点検・評価報告) II-B学生支援
(6) 学生の生活支援	(自己点検・評価報告) III-B物的資源、III-Cその他資源
(7) 学生納付金・修学支援	(自己点検・評価報告) II-B学生支援
(8) 学校の財務	(自己点検・評価報告) III-D財的資源
(9) 学校評価	(自己点検・評価報告) I-C自己点検・評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:

http://www.bit.urayama.ac.jp/disclosure/pdf/evaluation_report.pdf

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 幼児教育学科) 平成28年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				IT活用実務Ⅰ	社会人にとって必要なビジネスの基本知識とスキルを総合的に身につけていく。また、グループワークをとおして円滑なコミュニケーション力を身につけるためにさまざまな事例を学ぶ中、異文化理解や男女共同参画問題、政治問題などの社会事象にも興味・関心をもつことをねらいとする。	1・前	30	2		○		○		○		
○				英語コミュニケーション	日常的で平易な会話文を学びながら英語表現、イディオムや文法を習得する。また、実際に基本文型のパターンを応用して、コミュニケーションの手段として実践力を身につける。またこれらのことを学ぶことで、英語表現力の養成を目指す。	1・前	30	2		○		○			○	
○				健康科学	現代社会は「超高齢社会」「余暇社会」などと呼ばれ、人類がかつて経験したことのない時代を迎えている。このような中において、来るべく社会の問題や課題に対してスポーツはどのような意義や機能をもっているのだろうか。本講では、スポーツ活動をライフスタイルの中に位置づけ、自主的・主体的に実践していくために必要な基礎知識、技術を習得する。	1・前	15	1	○			○		○		
○				保育原理	「保育とは何か」ということに関する理解と考察を深め、保育者として子どもや保護者に関わるために必要となる基本的な視点や取り組み姿勢を深めることを目的とする。制度としての保育所の役割や目的の理解から、保育の目的や意義を考察する。また、保育の思想や歴史を概観することから、現代の保育との関連性や現代社会の抱えている子ども問題の考察を行なう。	1・前	30	2	○			○		○		
○				児童家庭福祉	子どもを取り巻く環境の変化や、子どもの犯罪・虐待、また家族機能の変化などによって、子どもの健やかな成長が妨げられている現状について自ら問題意識を持ち、児童家庭福祉における今後の課題としてどのように取り組んでいくべきか総合的に考察できる力を養う。また、「子どもの人権」を守るための児童家庭福祉の役割と課題について理解を深める。	1・前	30	2	○			○		○		
○				社会的養護	社会的養護の意義・歴史の変遷の把握を基盤に、児童観を含め児童の権利擁護、社会的養護の制度、実施体系、自立支援等の現状及び課題の理解を通して、保育士としての多様なニーズへの対応、児童の生活・成長・発達の支援の在り方について考察する。	1・前	30	2	○			○		○		
○				教育心理学	子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。そのためには、子ども理解における発達の把握を行い、環境としての保育者と子どもの発達との相互関係を学ぶ。また、生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、これにより生涯に渡っての生きる力を培う力を身につけることを知る。そして、子どものより良い発達のための援助について学ぶ。	1・前	30	2		○		○		○		
○				家庭支援論	現在の家庭を取り巻く社会的状況と今日における家族生活を理解し、「子育て支援」の社会的役割と家族との関わりを学ぶ。また、「子育て」からみた家族の課題をはじめ、子育て支援の課題やその具体的展開を考察する。	1・前	30	2	○			○		○		
○				こどもと言葉Ⅰ	子どもが生活の中で、経験したことや考えたことなどを自らが自分なりのことばで表現し、相手の話すことばを聞こうとする意欲や態度を育て、ことばに対する感覚やことばで表現する力を養う。また、絵本や紙芝居の読み聞かせなど実践的な学習をする。	1・前	15	1		○		○			○	
○				こどもとリズム表現Ⅰ	幼児期に豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするねらいのもと、幼児の心身の発達を促し、リズム感をつけるとともに、体をとおしてた動きで様々な表現ができるよう、その方法と技術を身につける。	1・前	15	1		○		○		○		
○				保育実習指導Ⅰ	実りある保育実習にするために、実習に向けての事前学習をし、保育の目的・内容・方法・心構えなどを学び、実習課題を明確化させる。また、事後学習において実習総括、評価、反省を行い、新たな学習目標を明確化させる。	1・前	15	1		○		○		○		
○				こども学概論	保育の現場や日常生活のなかから、子どもが示す行動を発達的にとらえる目を養うことを目標とする。乳幼児期の各年齢の発達の姿と生活・保育のなかで大切にしたいことを学び、事例について発達の考察を試みる。	1・前	30	2	○			○		○		
○				こどもと音楽	日常生活のすべてが音楽教育の場であることとらえ、豊かな音楽の楽しみがある生活を営むことの大切さを知る。また、保育者はモデルとして大きな役割をもつことを自覚し、自らが表現者として音楽を楽しむことができるようになる。	1・前	30	2		○		○		○		
○				こどもと造形Ⅰ	表現技術の一つとしての造形に関する知識や技術を学ぶ。具体的には子どもの発達と造形表現に関する知識と技術を学び、身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむような環境作りについて理解する。また、それにより子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊びの展開方法などを学ぶ。	1・前	15	1		○		○			○	

○		憲法	日本国憲法全体の主要事項（国民主権、平和主義、基本的人権尊重主義、統治機構）の意味内容を体系的に理解しながら、そこで取り上げられる政治的・憲法的課題について自ら考える学習を行なう。また、憲法が求める理念と現実社会との間にどのようなギャップがあるかを見つめながら、憲法問題に対する国民としてのリーガルマインドを養う。	1・後	30	2	○			○									
○		職業人基礎力	働くとはどのようなことなのかをベースにライフサイクルと仕事について考えていく。また、社会人としての一般常識として次の内容を中心に授業を行なう。 ①ビジネスマナーの基本。②就業中のマナー。③指示の受け方と報告・連絡・相談。④話し方の基本。⑤敬語の使い方。⑥会議への参加。⑦電話対応。⑧来客対応と面談基本マナー。⑨仕事とIT。⑩ビジネス文書の基本。	1・後	15	1	○			○									
○		スポーツ（実技）	スポーツ活動をライフスタイルの中に位置づけ、自主的・主体的に実践していくために必要な基礎的知識、技術を修得することにくわえ、「誰もが、いつでも、どこでも、気軽にスポーツを」という生涯スポーツの理念の実現に向けた学びを行なう。	1・後	45	1				○	○								
○		教育原理	初めに教育の意義、目的及び児童福祉等のかかわりについて学ぶ。その上で、教育の思想と歴史の変遷について学び今日の教育に関する基礎的な理論について理解する。また、教育の制度について理解し、それに伴う教育実践のさまざまな取り組みについて理解する。これら踏まえて現代の生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。	1・後	30	2	○				○								
○		社会福祉論	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。これらのことを基礎に、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について学ぶ。また、社会福祉の制度や実施体系について理解し、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。これらの学びを踏まえて社会福祉の動向と課題について考察をする。	1・後	30	2	○				○								
○		相談援助	現代のライフスタイルと福祉ニーズの変化に対応した社会福祉実践者が必要とされている。そこで、社会福祉で学習したことを基礎に、相談援助の目的を明確化し、児童福祉実践者としての専門的な「方法」を理解し、活用できる専門技術を身につける。	1・後	15	1			○		○								
○		発達心理学	人間の発達を生涯発達の視点からとらえ、それぞれの発達段階を理解し、発達期における課題と特徴、また心のありようを学ぶ。発達期における対人関係の重要性を学び、保育者と子どもとの連鎖的関係を理解する。また、生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連について考察する。	1・後	30	2	○				○								
○		こどもの保健Ⅰ	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学び、身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。これらを踏まえて、子どもの疾病の予防法と適切な対応について学ぶ。	1・後	30	2	○				○								
○		保育内容総論	保育所保育指針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解し、保育の全体的構造を理解する。また、擁護と教育が一体的に展開することを具体的な実践につなげて理解する。また、保育現場を取り巻く諸問題を複眼的にとらえ、保育の多様な展開に対応できることを目指す。	1・後	15	1			○		○								
○		子どもと人間関係	子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習する。子どもが園生活を通じて、自分が周囲の人々に温かく見守られているという安心感から生まれる信頼感と、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われる「生きる力」について学習する。	1・後	15	1			○		○								
○		子どもと音楽表現Ⅰ	音楽表現に関する知識や技術を学ぶ。それには子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術を身に着ける。具体的にはバイエルを中心としたピアノの基礎技術の習得とコールユーブンゲンを中心とした声楽の技術を習得する。また、身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ環境作りを工夫することを学ぶ。	1・後	30	2			○		○								
○		子どもと造形Ⅱ	自然やまわりの身近な環境とかかわりあって、自然物を使って自由な発想で造形活動を楽しめる感性を育てる。また、粘土や紙、砂など可塑性の高い素材を使って表現することを学ぶ。	1・後	15	1			○		○								
○		保育実習Ⅰ	種々の児童福祉施設での現場体験を通して、既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを具体的・総合的に実践する応用力を身につけることを目的とする。併せて、学校での今後の学習・研究課題を探求する。	1・後	180	4					○		○	○					○
○		保育実習指導Ⅰ	実りある保育実習にするために、実習に向けての事前学習をし、保育の目的・内容・方法・心構えなどを学び、実習課題を明確化させる。また、事後学習において実習総括、評価、反省を行い、新たな学習目標を明確化させる。	1・後	15	1			○		○								
○		IT活用実務Ⅱ	パソコンの基本的な活用を習得した上で、さらに実践的な技術を身につけることを目的とした科目。具体的にはパワーポイントを学び、効果的なプレゼンテーション力を身につける。また、ホームページ作成について学ぶことにより、ITに強い保育者の養成を目指す。また、Web活用に関するマナーを学び安全で効率的なIT活用技術を身につける。	2・前	30	2			○		○								
○		教職論	保育者の役割や制度の検討を通して専門職に関する造詣を深める。そして、専門職に携わる人間に必要なとされ、求められる「子どもを知る」「子どもに働きかける」「実践を構成する」などの専門性の内容についての理解をする。また、保育者としての自己成長という観点からも考察を進める。	2・前	30	2	○				○								○
○		こどもの保健Ⅱ	こどもの保健Ⅰを踏まえて、子どもの精神保健とその課題等を理解する。そして、保育における環境及び衛生管理、安全管理を理解し、施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。	2・前	30	2	○				○								○
○		保育課程論	教育・保育の目的や目標を有効に達成するための保育内容を、子どもの心身の発達に応じて編成・計画をする。具体的には教育・保育課程及び指導計画の基礎的な考え方についての理解を進め、教育・保育課程の編成と指導計画の作成に関する方法論を把握する。これにより、実践的な力を高めることを目的とする。	2・前	30	2	○				○								○

○		社会的養護内容	社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理についてや、施設養護及び他の社会的養護を学ぶ。これらを基本として個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。また、社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法の技術について理解し、福祉についての理解や認識を深める。	2・後	15	1		○	○	○									
○		保育相談支援	保育相談支援の意義と原則について学び、保護者支援の基本を理解する。これらを基本に保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。また、保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。	2・後	15	1		○	○	○									
○		こどもと音楽表現Ⅲ	「こどもと音楽表現Ⅰ及びⅡ」で学んだことをもとに、子どもの生活に根差した弾き歌いの技術を身につける。また、ピアノだけにとどまらず、身近な楽器を使っての音楽表現や自然物を使っての音遊びを楽しむ技術の習得にも努め、日常生活の中で豊かな音楽活動ができるようになる。	2・後	30	2		○	○									○	
○		精神保健	幼児にとって精神的健康の保持は身体的健康と同じ程度に重要なことである。そこで、精神の概念・動向・現代社会における意義と役割、精神障害の基礎知識、ライフステージ精神保健活動、精神保健福祉行政の仕組みと関連法規を学習し、社会福祉に携わる者にとっての精神保健の考え方について知る。	2・後	30	2	○		○									○	
○		臨床心理学	保育士を志す人に必要な心理学の基礎知識を習得する。また、心理学的アプローチによって他者を理解することで、保育現場における対人関係の適切なあり方に関する多角的な視点を学び、応用できる能力を身につける。	2・後	30	2	○		○									○	
○		こどもと文学	情操教育を考える上で、文学は必要不可欠なものである。また、美しい日本語に触れることは言語の発達に大きな影響を及ぼすものである。そこで年齢に合った絵本の選定方法や、読み聞かせの技術の習得を目指し、よりよい文学の環境設定ができるよう学びを深めていく。また、併せて公共図書館の利用などの体験をする。	2・後	30	2	○		○										○
○		こどもとリズム表現Ⅱ	「こどもとリズム表現Ⅰ」での学びを基本に、さらに豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることをねらいとする。具体的にはピアノなどの楽器やこどもの歌などでの表現や、季節の変化にともなう自然現象を感じての身体表現などを行い、その中で自己表現をするの楽しさを身につける。	2・後	15	1		○	○										○
○		こどもと造形表現Ⅱ	「こどもと造形表現Ⅰ」での学びを踏まえて、さらに造形表現の技術を高めていく。可塑性の高い教材を使っての自由な発想で造形活動を楽しめる感性を育てる。また、自然の中で自然物を使っての造形表現についても学ぶ。そのような経験を経て伝統的な絵画や造形物も学び、総合的な芸術的感性の育成する。	2・後	15	1		○	○										○
○		こどもと文化	大人社会の文化は子どもにいろいろな面で深い影響を及ぼしている。これらのことを認識するために、まず、現代社会の文化について学ぶ。そして、大人の文化が子どもにどのように影響しているか考察していく。また、未来をにう子ども達が健やかに育つために環境としての文化をどのように設定していくかを考える。	2・後	30	2	○		○										○
○		こどもと体育Ⅱ	子どもの運動発達の順次性や興味・欲求を理解する。その上で、明確な意図を持った保育計画の設定を考察できる力を養う。そして、発達に応じた体育活動・教材・教具の内容やその特性を知り、子どもを主体とした体育の指導・援助を身につけていく。	2・後	15	1		○	○										○
○		保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰでの経験とその後の学習をふまえて、自己課題をもち保育所の保育を実際に経験する。この実践をとおして、保育所の保育士に求められる資質・能力・技術を修得し、さらに自己課題を明確化していく。	2・後	90	2			○		○	○	○	○					○
○		保育実習Ⅲ	保育所以外の児童福祉施設などの役割や機能について実践を通して理解を深める。また、これらの実践の中で家庭と地域の役割などに気づき、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。	2・後	90	2			○		○	○	○	○					○
○		教育実習（集中）	幼稚園における教育実践について専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的にまた総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとする。	2・後	180	4			○		○	○	○	○					○
○		卒業研究（SC）	各自の興味に基づいて、文献レポートを行い、皆で討論しながら問題意識を深める。その過程において、各自の卒業論文テーマを絞り込む。また、研究方法および資料収集のための基礎知識・技能を学習する。	2・後	15	1		○	○										○
	○	文章・計算能力ⅠA	社会人として基本的な知識・技能を「読み・書き・そろばん」の観点で学ぶ、電卓技能や漢字、時事問題などを具体的に演習する。また各種検定も受検する。	1・前	30	1		○											
	○	文章・計算能力ⅡA	1年次で習得した電卓技能や漢字、時事問題などを更に深める。更に高度な資格取得を目指す。	2・前	30	1		○											
	○	親学ⅡA	人として心の成長や脳の発達を親と子どもの心の観点から学習する。	2・前	30	1		○											
	○	親学ⅡB	子どもを通じて親も親として成長することを理解し自分の将来への希望をもつ。	2・後	30	1		○											
合計				67科目	2040単位時間(110 単位)														

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 93単位取得 GPA2.0以上 必修科目を取得していること		1学年の学期区分	2期
・保育実習・教育実習履修に際し、「保育原理」「社会的養護」「こどもと言葉」「教育原理」「教育心理学」「こどもとリズム表現Ⅰ」「保育実習指導（前期、後期）」の履修を終了していること。		1学期の授業期間	15週
・2年次 選択必修科目は「保育実習Ⅱ」と「保育実習指導Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」と「保育実習指導Ⅲ」のいずれかを必修選択のこと。			

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。